

医療と社会

Social Medicine and Public Health

シリーズ責任者：予防医学 教授 高田 礼子

1. シリーズ概要・学習内容

本シリーズでは、健康・疾病・障害の概念について理解し、社会・環境と健康との関係、疫学と予防医学、保健・医療・福祉・介護制度について学び、医師として必要な公衆衛生、予防医学、保健医療に関する知識と技法を習得する。

1) 社会・環境と健康との関係

社会と健康・疾病との関係について理解し、個体および集団をとりまく環境諸要因の変化による健康と社会生活への影響について学習する。なお、各々の環境因子による健康障害の病態、症候については、「中毒・環境因子」シリーズにおいて取り扱う。

2) 疫学と予防医学

集団を対象として健康に関わる事象の要因を評価するための疫学とその応用について学び、根拠に基づいた医療(Evidence-based medicine (EBM))について理解を深める。とくに、「社会医学実習1：医療と社会」において疫学演習を行い、疫学の基礎を習得する。また、国民の健康状態を把握する上で重要な保健統計の意義と現状について学習する。さらに、予防医学と健康増進、とくに生活習慣とそのリスクについても学び、医師としての予防医学活動の基本を理解する。

3) 保健・医療・福祉・介護制度

保健（母子保健、学校保健、産業保健、成人・高齢者保健、精神保健、地域保健、国際保健）・医療・福祉・介護制度について、各々の現状や動向を学習する。さらに、医療計画、地域医療構想について学び、地域包括ケアシステムの現状と課題について理解を深め、医師として公衆衛生の実践に必要な知識を習得する。また、日常診療において必須の知識である医師法、医療法とその他の医療関連法規、医師の義務・届出について学習し、医療従事者の業務と職種間連携についても理解する。

2. 到達目標

- 1) 健康・疾病・障害の概念と社会環境について説明できる。
- 2) 社会構造と健康・疾病との関係を説明できる。
- 3) 環境と健康・疾病との関係、生態系の変化が健康と生活に与える影響を説明できる。
- 4) 環境基準と環境影響評価、公害と環境保全について説明できる。
- 5) 疫学の概念と疫学の諸指標について説明できる。
- 6) 根拠に基づいた医療 (EBM) と疫学的手法を説明できる。
- 7) 人口統計、疾病統計の意義と現状を説明できる。

- 8) 予防医学の概念と健康増進について説明できる。
- 9) 生活習慣と疾病との関係とその予防について説明できる。
- 10) 保健・医療・福祉・介護の各制度について説明できる。
- 11) 医療資源と医療経済について説明できる。
- 12) 医師法、医療法、その他の医療関連法規、医師の義務・届出について説明できる。
- 13) 医療従事者の資格、現状、業務、職種間連携を説明できる。
- 14) 診療情報と個人情報保護について説明できる。
- 15) 医療計画、地域医療構想、地域包括ケアシステムについて説明できる。
- 16) 母子保健、学校保健、産業保健、成人・高齢者保健、精神保健、地域保健、国際保健における現状や動向を説明できる。

3. 学習上の注意点

- 1) 本シリーズは講義内容が多岐にわたっているため、事前に参考書等で予習しておくこと。
- 2) 本シリーズは定期試験の出題範囲が広く、CBTにおいても出題数が多いため、講義終了後、各講義で示された重要事項について復習すること。
- 3) 食品保健、疫学（疫学概論、記述疫学、分析疫学）、産業保健（産業保健制度）の講義内容については、「社会医学実習3：中毒・環境因子」の実習時に必要な知識であるため、実習前に復習しておくこと。
- 4) 産業保健の講義内容については、「社会医学実習1：医療と社会」の学外施設見学時に必要な知識であるため、実習前に復習しておくこと。
- 5) 疫学（とくに疫学指標、分析疫学、スクリーニング）の講義内容については、「社会医学実習1：医療と社会」の疫学演習前に復習しておくこと。

4. 教科書・参考書

教科書：とくに指定しない。

参考書：

『NEW 予防医学・公衆衛生学（改訂第4版）』（南江堂）・・・（書評）医学部学生、公衆衛生大学院生、社会医学系専門医を対象とした予防医学・公衆衛生学のテキストであり、予防医学・公衆衛生学の歴史、基本的事項、現状と課題、手法、将来像について解説されている。2018年11月に改訂版が発刊され、内容が新しい。

『公衆衛生マニュアル2018』（南山堂）・・・（書評）すべての医療関係者や学生が利用しやすいように、公衆衛生活動に必要な知識の要点が網羅されている。保健・医療・介護・福祉制度や関係法規の最新の動向、人口・保健統計の最新データを盛り込み、毎年改訂されている。

『厚生労働省の指標増刊 国民衛生の動向 2018/2019年』（厚生労働統計協会）・・・（書評）医師国家試験対策の参考書が必ず参照している重要な書籍である。毎年発刊

され、最新の公衆衛生の現状や保健医療行政の動向の解説、重要な人口・保健統計のデータの図表がまとめて掲載され、情報を把握する上で便利である。

『公衆衛生がみえる 2018-2019』（メディックメディア）・・・（書評）公衆衛生に関する主要な法律、制度、統計の要点について、図表・イラストを多用しビジュアル化されており、CBT や医師国家試験の対策の参考書として活用できる。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	1	100 (%)	
授業態度		—	授業態度に問題がある場合、定期試験成績から減点する。
		100 (%)	

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
予防医学 (環境保健、 健康増進・ 疫学)	教授	高田 礼子	月曜日 12時30分～13時30分	医学部本館4階 予防医学教室	3425 (内線)
予防医学 (環境保健)	准教授	人見 敏明	水曜日 12時30分～13時30分	医学部本館4階 予防医学教室	3425 (内線)